

## 学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成27年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立与野高等学校	Aグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	学校の置かれた状況や生徒の実態を踏まえて、目指す学校像が設定されている。概ね適切に設定されているが、今後90周年を迎えるに当たり、新たなステージに向けての将来構想を検討した上で、より具体的かつ魅力ある学校像を模索していただきたい。
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	取組の成果や生徒の状況などを踏まえ、前年度と比べて重点化が図られた。生徒・保護者・地域などの期待や意見、要望を把握した上で、中期的視点から日々の教育活動の指針となるような具体的なものとなるよう検討すると更によい。
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	学校全体のシートに基づき分掌・学年に加えて教科のシートが作成されるなど、重点目標達成のための取組が進められている。学校自己評価システムを適切に運営するため、組織間の連携を強化し、教職員全体や生徒・保護者・地域住民などがより積極的に参画するような工夫を更に進めていただきたい。
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	学校全体の目標に基づいて分掌・学年・教科が目標を設定し、企画委員会が適切に機能して学校全体での取組を推進しており、「魅力ある授業に向けて」をテーマに授業改善のための教職員研修を実施するなど組織的・計画的な取組が増えてきている。方策の評価指標については、何を、いつまでに、どの程度行うのかといった視点から、教職員間で目標の達成イメージが共有できるような分かりやすいものを設定するなど工夫すると更に良い。
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長は組織力を高め、学校自己評価システムを活かした学校経営に取り組んでいる。校長が着任以来掲げてきた「二兎を追い、獲得する」は、着実に生徒・教職員・保護者などに浸透し、学校の教育活動の柱となっており、校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら学校の教育力を向上させる取組を行っている。
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	生徒・保護者対象アンケートなどを実施し、学校自己評価のための情報収集に努めている。今後は「将来構想検討委員会」などの学校改善を推進する組織を十分活用し、分掌・学年・教科と学校全体を連携させ、より組織的なPDCAのスパイラルアップを進めていただきたい。
特記事項		